

J Sights Corporation

2024 年度 北米産大豆の生育状況

2024 年 7 月 18 日

J サイト株式会社 担当:島尾

[お問い合わせ](#)

5 月後半以降、各大豆サプライヤーより送られてくる作付け・生育状況に関するレポートをまとめ、今年度
の大豆の生育状況を報告する。

カナダ：オンタリオ/ケベック地域

作付け時期（5 月後半～6 月前半） 湿度の高い日が続いたものの、作付けは例年通り開始。一部では降雨により再作付けが必要な場所もあったが、概ね順調に進む。

作付け～発芽時期（6 月中旬） IP 大豆の作付けは 80%程度完了。早期に作付けされた大豆は発芽し、遅れて作付けされた大豆もゆっくりと発芽。一部地域では過剰な降雨により、水がたまる問題が発生する。

発芽～開花時期（6 月後半～7 月中旬） 好天が続き、一部地域での再作付けもほぼ完了。天候による作付け開始時期のばらつきや、降雨もしくは猛暑などの影響で、生育にはかなりばらつきがある。7 月に入り、多くの畑で開花が始まり、遅れて植えられた大豆も今後数週間で追いつくと期待される。



アメリカ：ミシガン/インディアナ地域

作付け～発芽時期（5 月後半～6 月中旬） 概ね例年通りかそれ以上に順調に進行。湿度の高い時期が続いたが、土壌への影響はないと考えられる。

発芽～開花時期（6 月後半～7 月中旬） 例年より少し早いペースで進行しており、開花は 20%以上、莢を形成しているものも数パーセントある。雑草や病害虫、白カビもコントロールできている。ただし、大雨や嵐の予報があり、湿った土壌が続くと根腐れの心配が出てくる。

主な懸案事項

大豆生育 北米の大豆栽培地域でも温暖化の影響が避けられず、夜間も気温が下がりにくいいため害虫の対策が必要である。また、大雨による水はけの悪さが生育に影響を与える可能性がある。Non-GMO の作付け面積は依然として減少傾向にあり、希望の銘柄を作付けしてもらうのが難しい状況である。

ロジスティクス 戦争地域周辺の運航回避などにより、北米に限らず全世界的にコンテナ供給や海上輸送が不安定である。そのため、アジアから北米への輸送費も早期に上昇している。CN と CPKC 鉄道では、7 月中旬にストライキが発生する可能性がある。

今後の見通し

大豆の成長は概ね順調である。雑草や害虫対策は各農家で適切に行われているが、大雨による影響で天候に左右されることが懸念される。これに加え、ロジスティクス面でもスケジュール通りに進行できない恐れがある。昨年の 7 月には西海岸港湾でのストライキがあり、コンテナの確保やブッキングが困難になった。今年は鉄道でのストライキの可能性もあり、工場の出荷が予定通りでも足止めされるリスクがある。当社は前回直接の影響は受けなかったが、運航の遅延が重なり、予定揚げ地が抜港されることもあった。こうした影響を極力回避するため、収穫直後の在庫に余裕がある時期に出荷し、従来以上に余裕を持った輸入スケジュールを組むことを推奨する。